

京師帝國大學經濟學會 經濟叢論

第三號 第二十九卷

昭和四年九月一日發行

論叢

相續税の弱點 法學博士 神戸 正雄

津藩の均田策 經濟學博士 本庄榮治郎

經濟靜學と經濟動學 文學博士 米田庄太郎

說苑

我國の經費増加と物價の變動 經濟學士 小山田 小七

講演

上海の社會狀態 法學士 櫻木 俊一

雜錄

越前米浦の農民逃散 經濟學博士 黒 正 巖

獨逸^{に於ける}交通政策研究の現況 法學士 前田 稔 靖

投資トラストに關する一考察 經濟學士 一谷藤一 郎

艦船工場に於ける職工の生活 經濟學士 芝 元 一

物價指數に關する一論 經濟學士 木村喜一 郎

マイヤー文庫 經濟學博士 沙見 三 郎

近着外國經濟雜誌主要論題

マイヤー文庫

沙見三郎

—

統計學界の最高權威たるゲオルグ・フォン・マイヤー教授 (Georg von Mayr) は、一九二五年九月六日ミュンヘンの近く Tuzing に於て遂に逝去したのである。彼の貴重なる文庫は、大蔵省及び文部省の好意により京都帝國大學法經圖書室の書庫の保管に移されたのである。我が圖書室の書庫には、先に岩崎小彌太男爵の

寄贈にかゝるカール・ビュッツヒヤー(Karl Büchler)の文庫ありて經濟史の圖書を集めたが、今、又マイヤー文庫を得て統計學の參考書の欠陥を補ふ事が出来た、學界のために慶賀に耐へない次第である。

統計學に關する權威ある文庫が我國に輸入せられたのは、東京帝國大學のエルンスト・エンゲル(Ernst Engel)の文庫が始めてであつたが、此文庫は不幸にして震災のために亡びたのである。従つて我國に存する統計學の權威ある文庫としては、我がマイヤー文庫があるのみである。マイヤー文庫は、部數から言へば二萬部であるが、數冊又は數十冊よりなる定期刊行物を含んでゐるから、結局、冊數から云へば三萬冊に上つてゐる。面白い事には我國の大藏省の歐文財政經濟年報が其の中に含まれ、更に高野岩三郎博士、福田徳三博士等がマイヤー教授に寄贈せられし日本文の單行本及び雜誌が其の一部分をなしてゐるのである。

マイヤー教授は四年前に逝去せられたが、我國の一般は此事を知つてゐない。此機會にマイヤー教授の生

涯を簡單に傳へる事とする。

二

マイヤーは一八四一年二月十二日にヴュルツブルグ(Würzburg)に生れた。父は數學を專攻する大學教授であつたが、彼はミュンヘン大學にて法律學及び國家學を學んだのである。學生時代の勞作としては、一八六二年の「農業收益と林業收益との比較」と一八六三年の「森林が氣候及地質に及ぼす影響」との二つを擧げる事が出来る。

大學卒業後一八六四年バイエルンの統計局に入り、ヘルマン(Er. B. W. von Hermann)の指導を受けたのが、彼の統計の實際にたづさはりし第一歩である。其の後彼はミュンヘン大學の國家學部の講師となり、一八六八年には助教授に昇ると共に、統計局に於ては一八六九年にヘルマンの死後、局長となつたのである。

一八七九年秋にミュンヘンを去り、ストラースブルグ(Strasbourg)に移り Unterstaatssekretär として財政

の實務をとり、後には帝國議會に議員生活を遂げたのである。一八八七年に至り官界を去り、再び學界に戻つたのである。一八九一年ストラスブルグ大學の講師となり、一八九五年更に同大學の名譽教授に昇つたのである。

一八七九年以來約二十年の間、ストラスブルグに於て働いたのであるが、一八九八年に至り再びミュンヘン大學の人となり、統計學、財政學、經濟學の正教授として一九二〇年に及んだのである。マイヤー教授の學問的勞作は専ら此の二十年間に於て完成せられたのである。尙一九一三年より一九一四年に至る學年には總長の榮職についた事がある。一九二〇年以後も依然 *Tuzing* の自宅より大學に通ひて研究を續け、遂に一九二五年に於て八十五歳の天壽を全うしたのであつた。

三

マイヤー教授の生涯は實に多方面に及んでゐる。大藏省の高官として財政事務を司り、政治家として代議

士生活を遂げた事もある。その研究的方面も廣い開口を有してゐる。或は國家學全般に關する體系論を試み、或は國家學の大學教育に占むる位置を論じ、又は戰爭と經濟との問題にも觸れて居る。特に財政學については相當の努力をなし、租稅論を中心題目として研究したのであつた。

然しながらマイヤー教授の名を不朽ならしめたものは彼の統計實務に於ける活躍、及び統計學界に於ける業績であるから、此の點を一應説明して置く必要がある。

マイヤー教授の公人としての振出しはバイエルン統計局であつたが、當時の努力の結果が獨逸帝國統計局を發達せしむる所以となつたのである。獨逸帝國統計局の行ひし國勢調査、産業調査、農業調査の凡ての大調査にして彼の参加してゐないものはないのである、マイヤー教授の努力は單にバイエルン内又は獨逸帝國内に限らず、國際的に伸びてゐる。國際統計會議、國際統計協會、國際社會保險委員會、國際刑事學會等の

國際統計に關係あるいづれの方面に於ても彼の名が現はれてゐるのである。

マイヤー教授の統計學界に於ける業績に至つては更に偉大なるものがある。統計學が従來、經濟學、地理學、社會學、行政學等の寄生蟲たりし觀ありしに拘らず、之が學問界に於ける地位を確立し、統計學に獨立科學としての一の存在を與へたのは全く彼の功績であつた。更に統計學の根本問題として社會生活の法則性を論じ、又は統計學に人口統計、經濟統計、文化統計の各部門を分つたのもマイヤー教授の仕事であつた。

マイヤー教授の數多き著書の中、最も注目すべきは「統計と社會學」(Statistik und Gesellschaftslehre)である。この名著の第一卷として理論經濟學、第二卷として人口統計、第三卷として道德統計があるが、文化統計の殘部及び經濟統計の全部が遂に完成に至らなかつた事はマイヤー教授にとり遺憾至極の事であらう。

マイヤー教授が學界に残せし功蹟としては彼の統計學演習と、「一般統計雜誌」(Allgemeines Statistisches

Archiv)の創刊と、彼の七十歳の誕生の紀念に出版せられし「獨逸統計の現状」(Die Statistik in Deutschland)との三つを教へる人がある。第一のマイヤー教授のゼミナルにより無數の統計家が學界及び實際界に送られ、世界的に活躍してゐる事は忘るべからざる事實である。第二の「一般統計雜誌」は獨逸統計協會の機關雜誌であつて、世界の統計學界に重大なる存在を有してゐる。第三の「獨逸統計の現状」は一九一一年の出版ではあるが、獨逸の統計學者を總動員して完成したものであるから、獨逸統計學の當時の最高標準を示してゐるものである。

マイヤー教授の偉大なりし事は、やがてマイヤー文庫の貴重なる事を意味してゐる。願はくば此の世界的文庫を充分に利用する事によつて、我が統計學界の水準を一層高めたいものである。